

新たなスタート

浪江町長 馬 場 有

3月11日の追悼式を前にこの原稿を書いています。

毎年この時期になると、あの日、原発事故を逃れて避難した津島地区で見上げた時の真つ青な空を思い出します。中通りとは同じ季節でも浜の気候は違います。震災から6年が経過した今も、町内で見える青空は当時と変わらず、太陽の輝きの力強さを感じます。

まもなく春本番、桜の花が咲き誇り、世間ではさまざまな形で新たなスタートを切る方が大勢いらつしやるでしょう。

町は、「本格復興期」と位置付けた4年間の初年度を迎え、新たなスタートを切ります。4月より、浪江町内でのニーズの把握を十分行い、復興の加速化をさらに図るため、役場機能の大部分を本庁舎へ移します。自分たちの故郷を荒廃させてはいけません。町内で生活している方だけでなく、町内へ行き来する方のためにも、一日も早く町内の環境整備に努めなければなりません。

今後は、「浪江町復興計画【第2次】」、「中心市街地再生計画」等の各種計画などの具現化に着手していきます。特に、産業振興や絆づくりを重点的に進め、医療や介護関係についても引き続き取り組んでいきたいと考えています。

今年度の絆づくりは、町内で生活をする方が孤立感を感じないよう、スポーツ大会や音楽会などの交流の機会をつ

くつていく考えです。十日市のような祭りを町内で再び開催できるようにすれば、多くの方がふるさとへ集う機会にもなるでしょう。また、事情により避難先での生活を続ける方向けの施策としては、避難指示解除以降も町との絆を維持していただけるよう、避難先での交流会やイベント等を継続していきます。

復興に臨むにあたって、まずは、まちの基盤を残す「まちのこし」を意識しながら、徐々に復興、そして「まちおこし」というステージを目指していきます。浪江町には、請戸の田植え踊りや各地区の神楽など、豊かな文化と歴史があります。震災前に行われていた町内行事などを再開し、次の代に浪江町を繋げていきたいと考えています。

浪江町は、ここからが復興への新たなスタート。職員一丸となりネバーギブアップ精神で復興に努めます。これまでに、全国の皆さまにたくさんのご支援をいただきました。そして、これからは、ますます浪江町の復興に関わる方の力が必要です。「百年の大計」の絵姿を皆さまと描きながら歩んでまいりたいと存じますので、今後とも、ご支援ご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

4月を迎え、何かとお忙しいことと存じますが、花冷えに風邪など召されませぬようお体にはご自愛ください。